



+

ライター

=



子どもは火遊びをするためにライターを手に入れるのではなく、偶然落ちていたライターを拾って火遊びを始めるのです。家庭でライターなどを厳重に保管しているから、うちの子は

火遊びをしないと思っ
ていても、親の目の届かない屋外に意外な落とし穴があるので、子どもへの教育を子どもは好奇心が強く、火に対しては関心を示したら、しかるだけではなく、火の大切さや恐ろしさ

子どもの火遊びをなくすために

子どものいる家庭では、ライターなどは厳重に保管する。不要となったライターやマッチを不用意に捨てない。子どもの知識レベルや認識の程度を十分に理解し、小さな火が大きな火へと変化する火の怖さを教える。

火遊びをしないと思っ
ても、親の目の届かない屋外に意外な落とし穴があるので、子どもへの教育を子どもは好奇心が強く、火に対しては関心を示したら、しかるだけではなく、火の大切さや恐ろしさを教える、正しい知識を与えることが大切です。

全国では、毎年子どもの火遊びによる火災が多数発生しています。入学・新学期のこの時期に、幼稚園・学校をはじめ、家庭でも子どもたちに火の大切さや怖さを教え、正しい火の取り扱いについての防災教育を行いましょ

vol.23



市消防本部
☎0123

知って得する

No.6

暮らしのアドバイス

春の花壇づくり

～植えつけ1カ月前に土壌改良を～

暖かい日射しが降りそそぐ春。庭の一角に花壇をつくってみませんか。

花壇づくりはまず場所選びから。日当たりと水はけがよく、冬は北風が直接当たらない所が適しています。

植えつけの1カ月くらい前に、花壇にする一帯を深さ30cm以上掘り返し、石や雑草の根を取り除いてから、たい肥や腐葉土などを入れて土壌をふかふかの状態に改良します。

次にいよいよ植えつけですが、初心者は買って来た苗から育てる方が簡単ですし、早く花を咲かせることができます。店頭でよく見て、元気そうな苗を選びましょう。苗は、丸まっている根の先を、よく手でほぐしてから植えつけます。

種から育てる場合、植え方は草花によって異なります。そのまま花壇へじかにまくものもあれば、鉢やポットで育て、発芽してから花壇へ移殖するものもあります。移殖の際は、成長した状態のことを考えて、苗の間隔を開けておきます。

球根は傷や病斑がなく、固くてよく太ったものを選びましょう。球根の高さの約3倍の深さに植えつけ、間隔は球根二つ分くらいを開けるのが目安。栄養を蓄えた球根は無肥料でも開花しますが、油かすなどの有機肥料を入れた方が、より丈夫に育ちます。

その後の管理方法は草花によって異なりますが、適度な水と肥料、病害虫対策が基本。時間はかかりますが、手間を惜しまなければ、初夏から秋にかけて、自分の手で育てた美しい花たちに出会うことができます。

<春植え草花の例>

苗...マーガレット、ゼラニウム、ナスタチウム、シバザクラなど

種...ラベンダー、サルビア、コスモス、ヒマワリなど
球根...ダリア、グラジオラス、アマリリスなど

